

# 平成30年度 **あすなろの家** 事業計画

## — 目次 —

1、法人理念	1
あすなろの家理念・基本方針	2
あすなろの家10年後の展望	3
平成30年度重点課題	4
2、特養・ショート部門	
特養（ロング）	8
ショート	9
3、在宅部門	
デイ	10
ヘルパー	11
4、ケアハウス	12
5、居宅介護支援・支援センター	13
6、厨房	14
7、目標数値・事業計画一覧表	15

## 1、清水あすなろ福祉会 理念

一、すべての子ども、障がいのある人、高齢者が健康で文化的な生活がおくれるよう、地域の人々と力を合わせて、地域福祉の充実と向上に努め、施設として可能な限り必要な支援を行ないます。

二、子どもたちが集団の中で、一人ひとりが大切にされ、高齢者や障がいのある人も一人の人格として尊重される施設運営をめざし、常に努力します。

三、利用者・職員・地域住民・関係者の協力を基礎に健全な財政の確立に努め、一人一人の意見を大切にする民主的な運営・経営を行ないます。

四、公的な責任と共同の力で、だれもが、必要なときにいつでも利用できる福祉施設の実現をめざし、広範な人々と協力します。

# あすなろの家 理念



## 3つのキラキラ笑顔を … 「夢・挑戦・勇気」

### 1つのキラキラ笑顔

⇒ あすなろの家に集うご利用者、ご家族の「笑顔」をたくさん見たい！「笑顔」でいてほしい！！

### 2つのキラキラ笑顔

⇒ あすなろの家を支えてくれている地域の皆さん、ボランティアの皆さんの「笑顔」をたくさん見たい！「笑顔」でいてほしい！！

### 3つのキラキラ笑顔

⇒ あすなろの家を動かす職員の「笑顔」をたくさん見たい！「笑顔」でいてほしい！！

キラキラ笑顔、単なる笑顔ではなくキラキラ笑顔。

創られた笑顔ではなく、心が動いたときに出てくるようなとびきりの笑顔。

心が動く、そんな容易なことではありません。「あすなろの家」は人と人とがふれ合う場所。

心と心でふれ合うことが出来たら、キラキラ笑顔を導き出すことが出来るのでは。

そんなキラキラ笑顔が3つ合わさった時、私達が目指す「あすなろの家」が出来上がるのではないかと。

もちろん、笑ってられる時ばかりではありません。ただ、そんな時も心に寄り添っていつか笑顔になってほしい。

ご利用者・ご家族・地域・職員、皆がキラキラと笑ってられる、そんな「あすなろの家」にしたい。そんな思いが込められています。

私たちはこのような大きな「夢」をもち、「夢」に向かって、多くの「挑戦」をしていくことになるでしょう。その「挑戦」の中で変わっていく「勇気」、決断する「勇気」、伝え合う「勇気」を持っていきたい。3つのキラキラ笑顔を見るために…

## あすなろの家運営・経営の基本方針

- 一. ご利用者の生活の質を向上させる専門性の高い介護の提供を行います。
- 二. ご利用者と気持ちを通じ合う介護を行います。
- 三. ご利用者のご家族とのつながりを大切にします。
- 四. ご利用者に安全で気持ちよく生活して頂ける環境を提供します。
- 五. ボランティア、地域との交流を積極的に行い、施設機能を活かした地域支援に取り組みます。
- 六. 職員は『素直な姿勢』、『謙虚な姿勢』、『努力する姿勢』を持ち続け、視野を広げ、豊かな人間性を築くよう自己研鑽します。

施設本来の役割は、困っている方々の「最後の駆け込み寺」または「セーフティーネット（網の目のように救済策を張り、生活全般として安全・安心を確保し、提供できる安全網）」であり、その存在自体が地域での生活を保障するものであると考え、上記六つの基本方針のもと、社会がどんな情勢になろうと、地域社会との調和を大切に、いつしか地域に無くてはならない存在になります。

## あすなろの家 10年後の展望（平成28年度～）

平成27年度の介護保険制度改革により、軽度者（要支援1・2）の訪問介護・通所介護を介護保険本体の給付から外し、市町の実情に合った「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行された。介護・医療・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケア」の完成に向けた制度改革が今後も進められることでしょう。そしてこの情勢の中、低介護報酬の傾向は今後も継続されると予想され、大変厳しい経営環境が続きます。今後の事業のあり方の検討と対応は慎重にしていかなければならないと思います。

私たちは、2025年以降の高齢化のピークに向けて、自分たちの持っている機能、また持つべき機能を高め、地域において新たな役割を果たさなければならないと強く感じています。

あすなろの家は、ご利用者を守り、地域に必要とされる介護サービスを質量ともに充実、発展させ、継続的な切れ目のないサービス提供ができる施設になります。そして地域に根ざし、連携を広げ、誰もが安心して住み続けられる、また離れたくないと思ってもらえる町をつくりまします。

### ・設備の管理・更新

生活の場として安全・安心して生活できる環境を作ることを基本に置き、財政状況を確認しながら、助成金・補助金も活用し更新する。近い将来改修が必要な設備の優先順位を、防災設備・ナースコール設備・エレベータとし、照明設備、換気設備、車両・厨房器機・リネン機器については、状況に応じて随時更新する予定。また現在進行中の自立支援介護が、特養のみならず施設全体での実施が可能になるタイミングでの大規模改修を実施する（変更可能な構造の変更・内装改修・設備導入等）

### ・財政基盤の強化

一定の財務指標を示し、各サービスの目標稼働率の設定、収入・支出の毎月・毎年の財務状況を明確にし、事業の進捗に取り入れる。各事業部は連携を密にし、安定的な稼働の確立に努める。

人員配置にもよるが、取得できる加算はすべて取得する。

### ・人材確保と人材育成、及び職員配置の適正化（職位職責、キャリアパス含む）

良質なサービス提供には質の高い職員集団が不可欠、幹部育成は急務

### ・ケアの理論・技術の確立

自立支援介護（全老施協）の理論を基盤とした、あすなろの家自立支援の確立

### ・介護保険法、地域ニーズに応える拠点作り 3～5年

- ・地域包括ケアを意識した介護保険サービス、また制度だけでは手の届かない部分のニーズにも応える機能も有するもの。
- ・地域の労働力の活用（＝介護予防・認知予防）
- ・住民間のコミュニケーションの場
- ・地区社協（S型・ボランティア）、その他の団体・個人との連携が可能なもの。

### ・情報発信

ホームページの掲載内容として、自立支援介護の成果・各サービスの取り組み・ボランティアや地域との連携・各サービスの手作り新聞の掲載など、内容の充実を進め、最低でも月に1度の更新を行う。

# あすなろの家 平成 30 年度重点課題

## あすなろの家 新たなステージへ

### ～ 私たちが作る本物 ～

☆本物のケア☆本物の接遇力☆本物の繋がり

理論に裏付けされた専門性の高いケアの提供

丁寧な対応 ～観る・聴く・感じる・読み取る・話す・伝える・察する・想像する・気づく～  
相手の事を大切に想い感動を生み出す対応を

「あすなろの家がここにあった！」と地域の方々に感じて頂けるよう…

☆私たちが

日々ご利用者と関わり、あすなろの家を動かしているのは私たち職員

その私たちがご利用者のこと、ご家族のこと、地域のこと、一緒に働く仲間のことを大切に、真剣に、深く考えること。その結果、私たちは何をしたいのか。

私たちが考え、私たちが「本物」を作っていく。

「やるのは誰かではない、私たちです」

「あすなろの家は何をしていきたいのか」、「あすなろの家はどんな方向へ向かって行くのか」、「あすなろの家は何を目指すのか」、これらを示していくために理念というものを掲げています。その理念、基本方針を実現させていく為、1年1年どの部分に特に力を入れて取り組んでいくのかを、あすなろの家を動かす職員に分かりやすく示す目的で重点課題を挙げています。1年1年の積み重ね、継続することで理念の実現へつなげたいと考えておりますので、今まで重点課題として取り組んできた「オールあすなろ」「人財育成」「ご利用者ご家族とのつながりを大切に考えること」についても当然継続されていくものと捉えてください。

## 本物のケア・本物の技術

昨年度よりESRが中心となり「あすなろの家介護マニュアル」の作成と並行して、介護技術の研修会、その技術がきちんと身に付いたかの確認を行ってきた。取り組みの中で正しい介護技術を学ぶ機会をもつことの必要性を感じた職員は多かったのではないかと。また、安心して介護職員として現場に立っていくためにも有意義なものと感じられた。

昨年度試行錯誤しながらスタートさせたこの「本物のケア」の取り組みについて中身の充実、仕組みづくりを進め、高レベルな介護技術、介護知識を身に付けた職員がサービス提供できるあすなろの家を作っていく。また、介護職ではない職員についても、直接ではないがご利用者に有益になるよう各々が担う役割についての専門知識、技術を身に付けていく

お年寄りの力を引き出すケア

できないことをケアするのではなく、できる事を増やす、できる事を取り戻していただくケア  
そのために

5年間学んできた自立支援介護を活かしていくこと、  
理論を理解してケアを提供することを続けていく

「お年寄りの力を引き出すケア」ができる あすなろの家

「お年寄りの力を引き出すケア」を提供できる技術を持つ あすなろの家

その力を

地域のお年寄りにも利用してもらいたい

地域のお年寄りにも還元したい

あすなろの家があることで、地域の介護が必要なお年寄りができる事を取り戻し、地域の中で暮らしていけるようになったらいい

## 本物の接遇力

丁寧な対応 ～観る・聴く・感じる・読み取る・話す・伝える・察する・想像する・気づく～  
相手の事を大切に想い感動を生み出す対応を目指す

私たちの仕事は高齢者の生活を支え笑顔をつくり出すこと

私たちが関わらせて頂いている高齢者は、私たちが少しだけ支えることで笑顔で生活していくことができる人

そして…、時に子供のように思えてしまうような言動を持ち合わせた人もいます。

私たちは長い時間お年寄りと一緒に過ごさせてもらっているとこんな感覚に陥ってしまう事がある

「自分たちの言うことを聞いてもらいたい」「思い通りに動いてもらえない方は困った人」「まるで自分の身内かのように何を言っても許される」「上下関係の上にいるかのように叱ってわからせたい」  
これは間違っている。

昨年度は本物の接遇に近づく為、言葉のみならず、「相手の事を大切に想うこと」からはじまる接遇。  
誰に対してもどのような場面でも相手の事を大切に想い行動すれば、それは相手に周りに伝わり温かい気持ちを引き起こす、感動を創り出すことを目指し☆1委員会を中心に取り組みを続けてきた。確実にあすなろの職員の意識は変わってきているが、「やらなければいけないのはわかっているが忙しいとつい雑になってしまう」というような声も今だに聞こえてくる。あすなろの家でふれ合う全ての人が一瞬でも温かい気持ちになって頂けるよう、引き続き「本物の接遇力」を育てていく

## 地域と繋がる

団塊の世代が75歳以上になる2025年対策として掲げている「地域包括ケアシステム」の構築という大きな方針がある。「地域包括ケアシステム」とは医療・介護・予防・住まい・生活支援が確保される体制をそれぞれの地域の実情にあったかたちで作り上げましょうというもの。社会福祉法人が求められる役割としても「利用者の重度化対応、認知症対応、家族の介護軽減、低所得者、生活困窮者への対応」「地域貢献事業の義務化」等があげられている。

これはあすなろの家の理念と通ずる部分もあるため、私たちはこれまで通りぶらさずに事業を進めていけば良いわけである。周りにもたくさんの高齢者関係の施設が増え、私たちあすなろの家を取り巻く環境は大きく変わってきている。このことは特養待機者、他サービスの利用率をみても実感するところである。今年度もあすなろの家が厳しい状況に置かれている事には変わりはないが、良質な福祉サービスの提供、社会・地域における福祉の発展・充実を主な目的、使命とする「社会福祉法人」として求められている事を「社会福祉法人としてのプライド」を持ち、他の事業所の見本となるような質の高いサービスの提供、対応をしていく努力を続けたい。

そして、「地域と繋がること」について考えてみたい。あすなろの家は高齢者施設であるので、高齢者を支援する役割はもちろんだが、高齢者支援とは離れた分野の方々＝地域と繋がることができたらいいと考えている。そのことが「いつしか地域に無くてはならない存在になる」ことに近づいていくのではないかと考えている。「あすなろの家がここにあったよかった！」こんな風に地域の方々に感じて頂けたら地域と繋がったということになるのかと感じる。あすなろの家は開設して20年を迎えたが「こんな施設があったなんて知らなかった」という声をよく耳にする。昨年度もあすなろの家を知ってもらうため様々な形で地域へ発信していく活動を行ってきた。今年度も引き続き地域にあすなろの家を知ってもらうため、更に新しい取り組みを増やしていく

## 私たちが

「自立支援介護でお年寄りを元気にしよう」「接遇強化！丁寧語、丁寧な対応をしよう」「社会福祉法人の役割って地域における福祉を発展させていくこと、まずはあすなろの家が考えていることをもっと地域に伝えていこう」

これはあすなろの家が進んでいこうとしている方向性であり今後も大きなブレなく進んでいくと考えている。

これを実際動かしていくのは私たち職員である。ご利用者と実際に関わっている職員、調理を行っている職員、来客者の対応をする職員、掃除等を行う職員、それぞれ担当は違うがそこで働く私たち職員がこのあすなろの家がやりたいことをきちんと理解し、その為に何をしていくのか、何をしたいのかをじっくり考えて行動していく。私たちが思い描くあすなろの家を作っていく、動かしていく。今年度は今まで積み上げてきたものに「私たちが」を加えていく。

以上項目に分けての課題となっはいるが、どれも単独なものではなく全てが絡み合い、全てが実現できることで、理念に近づくものである。

これらの目指すものを一緒に実現していくためにあすなる職員に持ち続けてもらいたいもの

「素直な姿勢」「謙虚な姿勢」「努力する姿勢」

一緒にがんばりましょう

## 2、特養・ショート部門

### 特養（ロング）

#### 《基本方針》

笑顔のために　～いつまでも元気に過ごす～

#### 《10年後の展望、将来像》

専門性の高い職員を育成し、理論に基づく介護を提供していくことで、ご利用者自身の力を最大限引き出し、自立した生活を送ることができる施設

「行きたいところへ行く」「食べたいものを食べる」「トイレで排泄する」

そんな当たり前が実現できる施設

### 重点課題

#### 《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

『お年寄りを元気にする　地域から選ばれる施設になる!』をモットーに、自分たちが行っているケアに自信をもつ　そのためにも、研修などを通し基本的な技術、知識を身につけ、理論的根拠に基づいたケアを確立する。

接遇面については、「相手の立場になり相手の事を大切に想う」を意識し、誰に対しても丁寧語、ご利用者、お客様に丁寧な対応ができる職員集団となる

あすなろの家特養が地域にできることは自立支援介護の技術を確立し地域に伝えていくこと、あすなろの家で元気になってまた住み慣れた自宅へ帰ることができ地域にとってあすなろの家特養の存在そのものが安心だと感じてもらうことである。今年度は少しずつでも「在宅復帰」に向けた取り組みを進め、それを地域へ伝えていくことに取り組んでいく。

#### 《私たちが～》

『私たちがお年寄りを元気にする!』

データ、知識、技術、経験知を基に自分たちで分析し、考え、実施する

お年寄りは楽しみを目標に…

職員はお年寄りが元気になる喜びを励みに！！同じ方向を向いて行こう！！



## ショート（短期入所生活介護）

### 《基本方針》

自立支援介護で住み慣れた家、地域でいつまでも元気に！！

自立支援介護で家族をサポート、バックアップ！！

### 《10年後の展望、将来像》

あすなろの家のショートに行けば元気になれる！

家族、地域に頼ってもらえる。無くてはならない事業所になる

## 重点課題

### 《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

『お年寄りを元気にする！』在宅の自立支援のカギはご家族、他事業所、在宅サービスとの協力。ショートとして行っているケア（自立支援）についてを確立させ、ご家族、他事業所等地域に説明していく。

接遇面については、これまで取り組んできたことも継続しながら、「あすなろのショートを選んで利用してくれてありがとう」という気持ちも込めて、利用中、ご利用者、ご家族が不安なく過ごして頂けるよう目配り、気配り、心配りをする。

あすなろの家のショートの役割、それは、自立支援介護を提供し、ご利用者を元気にして自宅（地域）へ帰って頂くこと。実際、入院先の病院からショートステイを利用し元気になって自宅へ帰ることも増えてきている。あすなろの家ショートステイが地域の中で役割を果たしていくことで、地域のお年寄りが住み慣れた地域で少しでも長く生活を続けて頂くことができるよう高い意識を持ち取り組んでいく。

### 《私たちが～》

『私たちがお年寄りを元気にして自宅に帰す！！』

『私たちが地域を元気にする！』

自立支援介護を軸に楽しみものせて、私たちが作るショートのケア

## 3、在宅事業

### デイサービス

#### 《基本方針》

「笑優愛」 えがお ～気づこう 考えよう やってみよう～

たくさんの笑顔を見るために、たくさんの愛をもって、たくさんの優しさで、安心、安全そして元気を提供したい。ご利用者のこと、職員のこと、業務のこと、いろいろなことに「気づきたい」、そして「考える」、考えたことを「やってみる」を繰り返す そんなチームを目指したい

～そして、特養ショート併設という好条件な環境にあるが、特養併設だからでなく、「ここがいいからあすなろデイを利用したい」と選んでもらえるデイサービスを作りたい～

#### 《10年後の展望、将来像》

自立支援介護をより充実させ、ご利用者の力を引き出すケアの提供ができるデイサービスとなる。あすなろのデイを利用しながらの生活でご利用者が元気になり、1日にでも長い在宅生活を支援するための拠点となる

### 重点課題

#### 《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

昨年度から引き続き、職員の基本的な介護技術の修得、自立支援介護の知識技術の修得を計画的に行い、あすなろの家デイサービスとして『自立支援介護を軸とした新しいデイ』『ご利用者が元気になるデイ』に挑戦する

今年度も、ご利用者職員間の丁寧語は徹底する。謙虚な気持ちで行動し頼まれたことは気持ちよく引き受ける。いつでも誰にでも、そしてどのような場面でも、相手のことを想い、心のこもった対応をしていく

あすなろの家デイサービスが地域と繋がっていく為に、あすなろの家デイサービスはどんな考えのもと、なにをやっているのかを地域に伝えていく。そのために、全体として取り組む“参観会”“納涼祭”等の地域へ向けた行事を1つ1つ大切に組み込んでいく

#### 《私たちが～》

誰かにやらされてやるのではなく、指示が無ければ動かないのではなく、私たちが考えて動く、そしてやってみる！

伝わらないのではなく、どうしたら伝わるのか？わからないのではなくてわかる努力をする。

「ご利用者が元気になるデイサービス」「笑顔をつくりだすデイサービス」

それが私たちが作っていくデイサービス

# ヘルパー（訪問介護事業所）

## 《基本方針》

寄り添うこと から

ご利用者、ご家族のこれまでの生活、これからの生活、いろいろな思いに「寄り添う」ことからヘルパーの仕事は始まる。そして寄り添い続けたい…

- ・「いつまでもこの家で自分らしく暮らしたい！」そんな当たり前の思いを支えたい
  - ・たくさんの「和」を作りたい
- ～ご利用者との和、ご家族との和、地域との和、職員同士の和、信頼の和、明るい和～

## 《10年後の展望、将来像》

在宅介護での認知症含めた重度化が予想される。在宅に居ても施設と同じようなサービス提供が可能な事業所づくりをすすめる。また、自立支援介護の技術も身に付け「地域のお年寄りにも最期まで満足した生活を送って頂く」ことを他のサービスとも連携し実践していく

## 重点課題

### 《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

基本的な介護技術の修得、自立支援介護の技術、知識の習得は変わらず進めていく。

今年度は介護保険の改正がありヘルパー事業所として「身体介護」への訪問依頼が増えていくと予想される。介護保険事業所に求められている物は介護力、介護技術であることを理解し事業展開していく。

接遇については、常にご自宅にお邪魔させて頂き1対1の対応であることから相手の事を大切に考えた対応が出来ている場面も多くある。反面、馴れ合いが出やすい所もある。今年度は限られた時間の中で、どんな場面でもご利用者、周りの全ての方に心のこもった丁寧な対応をする。ご利用者の背中に手を添えて温かい気持ちを届け、さらに1番近くで在宅生活を支えるご家族へ日頃の苦労を考え感謝の気持ちを声に出して伝えていく

繋がりについては、今年度はあすなろの活動や地域の行事等、積極的に関わり、ヘルパーの活動等を地域の方々に知って頂くことに力を入れる。そしてヘルパーが一番近い形で地域をサポートできたらいいと考える

### 《私たちが》

例えば…漏れないオムツの当て方を皆で考えるのではなく、どうしたらトイレで排泄できるのかを皆で考える。簡単にあきらめない、いくつもの課題、問題に皆で考え乗り越える。

単独の業務ではあるが想いは1つ！

ご利用者の出来る事を取り戻す支援を行い、住み慣れた自宅での生活を継続して頂くことそれが私たちが作っていくヘルパー事業所

## 4、ケアハウス

### 《基本方針》

「安心できる住家でありたい」を目標に、何を求め、何をしていかなければいけないかをご入居者と職員と一緒に考えていけるケアハウスでありたい。

それぞれに年齢、生活習慣、生きてきた環境が違う 30 名が少しずつ歩み寄り、交流の場である行事に多く参加し、お互いを理解し支え合いながら安心、安全な生活が送れるケアハウスを作り上げていくことを目指していきたい。

また、ケアハウスしみずが施設全体の中でもっと浸透し、ケアハウスしみずのご入居者の認知度を高める仕組みや取り組みを行っていく

### 《10 年後の展望、将来像》

- ・ケアハウス入居の条件をケアハウスしみず独自で作し、自立可能ではあるが将来的、経済的に困っている高齢者を対象とした軽費老人ホームにしていく
- ・自立支援介護の基本をケアハウスご入居者にも浸透させ、ご入居者が地域に発信できる活気のあるケアハウスをつくる

### 重点課題

#### 《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

どうしたら幅広いレベルのご入居者が、ケアハウスで長く自立した生活を送っていけるのか？様々なタイプの援助に対応できる職員の技量が必要となる。中でも基本的な介護技術、自立支援介護の知識技術は大事なものになるので引き続き、他部署の協力を得ながら勉強していく

「安心した生活がしたい」ご入居者がケアハウスを選ぶ理由の 1 つ。職員の丁寧な対応、丁寧語、清潔に見える身だしなみ、そして笑顔。そんな職員の立ち振る舞いが、話し易い雰囲気、居心地の良い空間を作り出す。これらが実行できているか定期的に確認やアンケートを行い接遇面の強化をすすめる

ケアハウスを地域に知ってもらうこと、施設全体の取り組みや、地域行事への参加を通して積極的に地域へ伝えていく。また、ケアハウスの行事に地域の方が参加して頂けるような企画を実行する。ケアハウスが地域の方々の交流の場として新しい役割を作っていく

#### 《私たちが》

ケアハウス職員として責任と自信を持てるように知識と技術を備える

気持ちよく仕事ができるようにチームワークを磨く

本気で本物(ケア、接遇、繋がり)を作る！

## 5、ケアマネ（居宅介護支援）・在宅介護支援センター

### 《基本方針》

「できる限り在宅で自立した日常生活を継続できるように支援する」  
この方針のもとで、『自立支援介護』の知識、技術の修得を目指し「あすなろなら安心」と思ってもらえるようなケアマネジメントや事業展開を行っていく

### 《10年後の展望、将来像》

あすなろの家がセーフティネットとして地域の安心を保證できる施設になっている  
『自立支援介護』『自立支援型ケアマネジメント』が事業所として確立されている  
また、その知識と経験知を地域に対して発信できる事業所になっている

### 重点課題

#### 《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

本当の意味での「自立支援」の実現のため、ケアマネ個人の“伝える力”“マネジメントの力”“コミュニケーションの力”等“個の力”を上げていく。また、自立支援介護の知識技術を更に深め、在宅ご利用者の成功例を増やしていく

毎日の身だしなみチェック、接遇の振り返りをすること、また、ご利用者含めお客様に対して「ありがとう」「感謝」の気持ちを伝えることで、より相手を想う接遇を実践していく

新たな出張相談やミニ講演会の展開を含め、居宅の職員だけではなく、あすなろの家職員がもっと地域と触れ合う機会を作りだしていくことで、あすなろの家が更に地域に根差す、必要とされる場所になるよう事業推進する。

#### 《私たちが》

介護保険の専門家として「自立支援」を追求、実践していく

これまで以上の積極的な活動と勉強、経験、コミュニケーションによって関わる全て人と信頼関係を築く

あすなろの家の顔として、自分たちの存在そのものが「本物」となる

## 6、厨房

### 《基本方針》

健康の保持と生きるための活力の源である「食べること」を通して、他職種で協力しながら、栄養ケアマネジメントの科学的な根拠を基に、常食化の取り組みを行い、最期まで美味しく口から食べることを支援していく。また、厨房職員はご利用者のことを考え、多様なニーズに対応できる本物の調理技術・専門知識の習得に力を入れていく

### 《10年後の展望、将来像》

あすなろの家のご利用者・地域のお年寄りのADLの自立（常食化）

→ 食べたいものを食べることできる

栄養・食事相談、料理教室の開催

### 重点課題

#### 《本物のケア、本物の接遇力、本物の繋がり》

「自立支援介護」の常食化を実現するために、厨房職員が食事摂取についての知識をさらに高め「全員常食」に向け他部署と共に進めていく。また、安全な食事を提供するためにHACCP（衛生管理）の取り組みを継続していく

丁寧な調理、丁寧な盛り付けを心掛け食事摂取に繋げていく。

笑顔、丁寧な言葉、丁寧な挨拶を忘れず、相手の事を想うことを優先する。例えば！「代替えを頼まれたら速やかに対応する」

納涼祭、参観会、調理講習会等の行事を通して「あすなろの食事」について地域に発信していく。また、あすなろメニューのネット配信、あすなろ食堂開店、S型デイお弁当提供を先に見据え厨房独自の取り組みの準備を始めていく。そして地域の方にも食事の大切さ、健康について伝えていく

#### 《私たちが》

ご利用者の食事摂取状況を把握する

調理方法（切り方、食材の選び方、盛り付け等）の確認をする

厨房内、他部署との意見交換を積極的に行う

私たちが全員常食化を可能にする！

# 平成 30 年度各事業部目標数値

サービス名	目標利用率
特 養	99%以上(空床日数182日)
ショート	90%以上(18名/日以上)
デイ	90%以上(31.5名/日以上)
ヘルパー	30ケース/日以上
居 宅	36ケース/1人
ケアハウス	100%以上(空床日数0日)
厨 房	納入金額・業者の見直し・冷凍野菜の活用

# 平成 30 年度各事業部事業計画

	設備	財政基盤強化	人材育成	ケア理論・技術確立	事故・利用者の声	その他
特 養	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3G 水回り改修</li> <li>・臭い対策・整理整頓</li> <li>・破損故障対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算定可能な加算の算定</li> <li>・迅速な入所</li> <li>・コスト見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価研修システムに沿った職員育成(各段階別)</li> <li>・リーダー育成強化(主任面談)</li> <li>・新人育成のシステム見直し(混乱を招かない様に)</li> <li>・各G係システム作り、発信できる力をつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上</li> <li>・グループ力強化</li> <li>・自立支援介護の知識、技術確立</li> <li>・口腔ケアの強化</li> <li>・排泄ケア(TENA)強化</li> <li>・研修(現場職員)</li> <li>・アセスメント、モニタリング力をつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇、事故研修(同じ認識)</li> <li>・危険予知研修</li> <li>・必要時にはかかわった職員で実況見分を行い事故対策をたてる</li> <li>・家族への報告(対策まで) 行政へ報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職種間の業務連携確認、修正</li> <li>・会議やり方見直し(ケアプラン、事故、褥瘡)</li> </ul>
シ ョ ー ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臭い対策・整理整頓</li> <li>・ベッド、車椅子、歩行器具計画購入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算定可能な加算の算定</li> <li>・ロングショートの受け入れ</li> <li>・利用率の安定</li> <li>・コスト見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価研修システムに沿った職員育成(各段階別)</li> <li>・リーダー育成強化(主任との面談増回)</li> <li>・新人育成のシステム見直し(混乱を招かない様に)</li> <li>・在宅の勉強会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上</li> <li>・グループ力強化</li> <li>・自立支援介護の知識、技術確立</li> <li>・口腔ケアの強化</li> <li>・研修(現場職員)</li> <li>・アセスメント、モニタリング力をつける</li> <li>・自立支援、成果を残す</li> <li>・介護保険知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇、事故研修(同じ認識)</li> <li>・危険予知研修</li> <li>・必要時にはかかわった職員で実況見分を行い事故対策をたてる</li> <li>・家族への報告(対策まで) 行政へ報告</li> <li>・自宅で困っていることなど家族と一緒に相談する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全運転</li> <li>・楽しみの提供</li> </ul>
デ イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に沿った設備の改修(畳、中庭、なでこ)</li> <li>・送迎車の整備</li> <li>・整理整頓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率の安定</li> <li>・算定可能な加算の算定</li> <li>・コスト見直し</li> <li>・延長デリアピール</li> <li>・柔軟なケースの受け入れ</li> <li>・他部署との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価研修システムに沿った職員育成(各段階別)</li> <li>・医療知識研修</li> <li>・幹部職員打ち合わせ</li> <li>・新人職員ケアチェック表</li> <li>・主任面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上</li> <li>・自立支援介護の知識、技術確立(内部研修参加)</li> <li>・特養への食事介助、歩行介助</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇、事故研修(同じ認識)</li> <li>・朝礼、打ち合わせで事故予防の声かけ</li> <li>・ミーティングでの原因追及、対応対策検討</li> <li>・安全運転</li> <li>・家族への報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務見直し</li> </ul>
ヘルパー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイク整備</li> <li>・備品の補充</li> <li>・整理整頓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算定可能な加算の算定</li> <li>・コスト見直し</li> <li>・ヘルパー確保</li> <li>・体制強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価研修システムに添った職員育成</li> <li>・幹部職員打ち合わせ</li> <li>・主任面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援介護の知識技術確立</li> <li>・基本的介護技術(移乗、排泄、入浴、食事など)見直し、技術統一、向上</li> <li>・情報の共有、ケアの統一</li> <li>・特養への食事介助</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリ、利用者の声メモ活用、全員チェック</li> <li>・会議での対応策検討</li> <li>・家族への報告</li> <li>・安全運転</li> <li>・利用者の声への原因追及と対応対策検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化、認知症対応準備</li> <li>・生活援助から身体介護への移行 動向注視</li> <li>・ヘルパー雇用形態検討</li> </ul>

	設備	財政基盤強化	人材育成	ケア理論・技術確立	事故・利用者の声	その他
ケアハウス	<ul style="list-style-type: none"> <li>居室の設備点検</li> <li>防災設備点検</li> <li>部屋の入れ替え時の現状を記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食費の返金額、冷暖房加算の見直し</li> <li>備品、光熱費、行事費見直し、コスト削減</li> <li>行事費の自己負担額の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な対応</li> <li>やりがいと力を発揮する場</li> <li>評価研修システムに添った職員育成</li> <li>小さな目標活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援介護の習得学習</li> <li>介護技術</li> <li>幅広いレベルの入居者に対応できるような援助技術の取得</li> <li>ご家族との面談の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故、利用者の声から学ぶ改善と対応策の取り組み</li> <li>事故対策の振り返りと見直し、確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民と入居者、地域住民同士の交流の場となる</li> <li>地域行事への参加</li> </ul>
居宅	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援介護実践における必要物品</li> <li>パソコン、車両</li> <li>地域活動及び出張相談における必要物品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>減算対象にならない</li> <li>算定可能な算定の算定</li> <li>要介護認定調査月平均15件</li> <li>ケース数増減対策</li> <li>コスト見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修システムに沿った自己研鑽(各段階別)</li> <li>ご利用者本位を考えられるケアマネージャー</li> <li>ケアマネ会議で事例検討</li> <li>一体的支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自立支援介護」「自立支援型ケアマネジメント」の知識取得</li> <li>要介護状態の重度化に対応した認知症ケア</li> <li>素直、謙虚な姿勢で事業所とチームで取り組む</li> <li>チームケアの浸透</li> <li>「業務マニュアル」の見直しと活用</li> <li>「地域包括ケアシステム」の理解と実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヤリハットから読み取れる事故を精査し対応策を図る</li> <li>対策を振り返り実践できているかどうか確認する</li> <li>ヒヤリハット、利用者の声を毎週確認</li> <li>連絡ミス等流さずきちんと報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あすなろ通信</li> <li>地域包括ケア</li> <li>S型デイ、ミニ講演会への職員派遣</li> <li>金融機関、スーパーコンビニの待合室相談、出張相談</li> <li>S型デイスタッフ懇談会</li> <li>セーフティネットとしての役割認識、支援が難しいケースも積極的に受け入れる</li> <li>和出張相談</li> </ul>
厨房	<ul style="list-style-type: none"> <li>厨房設備や機器、食器等の劣化への対応</li> <li>費用、作業効率を検討しながら購入や修理を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>納入業者、納入価格の見直し</li> <li>給食費の値上げ検討</li> <li>コスト見直し→職員による食材等の買い出し</li> <li>冷凍野菜の活用</li> <li>地産地消(あすなろ畑)</li> <li>節電(食器洗浄機、食器保管庫)</li> <li>補助食品個人購入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価研修システムに添った職員育成</li> <li>幹部職員育成・外部内部研修・評価シート・面談</li> <li>調理員の献立作成</li> <li>栄養士教育</li> <li>丁寧な対応</li> <li>「給食だより」の発行</li> <li>小さな目標の活用</li> <li>チェック表の活用(献立、清掃)</li> <li>打ち合わせ(12:50～)</li> <li>調理師免許取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理技術の確立(統一された調理方法)</li> <li>専門知識習得</li> <li>自立支援介護(常食化)</li> <li>衛生管理</li> <li>HACCPの取り組み</li> <li>大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理点検表の活用</li> <li>保菌検査、衛生検査</li> <li>清掃、公衆衛生委員会</li> <li>嗜好調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部署との連携</li> <li>ヒヤリ、事故報告書の活用→意識→向上</li> <li>打ち合わせ(ヒヤリ、事故防止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直営給食の継続</li> <li>地域へ(食事会、料理教室、栄養指導)</li> <li>厨房給食だより</li> <li>S型見学</li> </ul>



